

# 中学校第2学年 国語科学習指導案

生徒：男11名 女10名 計21名  
授業者：田村 節子

- 1 単元名 立場と根拠を明確にして書こう  
教材名 意見文を書く（光村図書 2年）

〈単元を貫く言語活動〉

多様な考え方ができる事柄について立場を決めて意見を述べる文章を書く

## 2 単元について

### (1) 単元について

本単元は、多様な考え方ができる事柄について、自分の立場と根拠を明確にし文章の構成を工夫して書くことをねらいとする。自分の意見を述べるときは、立場を明らかにすることがまず必要である。そして、賛成か反対かなどの自分の立場を決めるためには、それを支える明確な根拠が必要になる。その立場を表明する部分をどこに置くかによって「頭括型」、「尾括型」、「双括型」といった文章構成を考えることになる。意見を述べる文章を書く方法を学ぶことは、複雑な事象の中身や、物事に対する多様な考え方などが整理され、自分の考えを広げることにつながっていく。こうした力を付けるためにこの教材を使うことは大変意義のあることと考える。

### (2) 生徒について

生徒はこれまでに、事実や事柄を効果的に伝えるためには、「どのように」説明するとわかりやすく伝わるか等を学習し、課題について文章にまとめる活動を行ってきた。しかし、「読むこと」の学習に比べると学習意欲が十分に高いと言える状況ではない。

「何」を、「どのように」、に加え「なぜ書くのか」という「書くこと」の必然性の意識付けが不足していたことが理由の一つであると思われる。そこで、本単元では学習の見通しを持たせ、自分たちの生活に身近な題材を用いて書くことの目的を明確にさせ、取り組むことができるようにする。指導に当たっては、書くことの課題を決める段階から書いたものを交流するまでの一連の学習に見通しをもって取り組ませていくことができるようにする。

### (3) 言語活動の充実の工夫

生徒に単元の学習の見通しを持たせるために、学習の流れを示した学習計画表を作成し毎時間の学習に活用していく。その後、教科書の例文の比べ読みや自作教材による意見を述べる文章の書き方を段階的に理解させ、ねらいとする文章のイメージを持たせていく。

題材については、昼食は給食がよいか弁当がよいか、という生徒にとって身近なものを用いて、考えたり書いたりする意欲を持たせたい。

また、意見を述べる場合、反論を想定することで自分の意見をより明確にすることができることに気づかせる。その後、絞り込んだ根拠や反論に対する意見を論理の展開の型に従って書くことができるワークシートを活用し、意見を確かなものにさせる。

意見を述べる文章を書いていく取材・構成・記述の各段階では、段階に応じたワークシートを活用し、生徒が主体的に書き進められるようにする。書いたものについては、取材・構成・記述の各段階ごとに、お互いに読み合い、交流し合う場面を設定し、各自の考えを広げたり深めたりするようにする。

## 3 単元の目標

### (1) 国語への関心・意欲・態度

- 自分の立場や意見が相手に伝わるように、根拠を明らかにして意見を述べる文章を書こうとする。

### (2) 書く能力

◎自分の意見が効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、具体例や予想される反論などの構成を考えながら文章を書くことができる。(書くこと イ)

- 書いた文章を互いに読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすくわかりやすい文章にすることができる。(書くこと エ)

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・相手や目的に応じて、文章の展開に違いがあることを理解することができる。(伝国イ (ウ))

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の立場や意見が相手に伝わるように、根拠を明らかにして文章を書こうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見が効果的に伝わるように、根拠を持ち、具体例や予想される反論と反論に対する意見の構成を考えて文章を書いている。(イ)</li> <li>・意見と根拠、予想される反論などのつながりに注意して読み手に伝わりやすい文章にしている。(エ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手に自分の考えやその根拠などが効果的に伝わるように文章の展開を工夫している。(イ (ウ))</li> </ul>

5 発展と関連



## 6 指導計画及び評価規準（6時間扱い）

次	時間	目標	学習活動	評価規準・評価方法
1	1	○相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のねらいと、言語活動の内容を具体的に示し、学習の見通しをもつ。</li> <li>・教材文を用いて意見の述べ方や根拠の示し方について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解している。《ワークシート①》</li> </ul>
2	2	○自分の立場や根拠が相手に伝わるような書き方を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「紙の辞書と電子辞書では、紙の辞書を使う方がよい」のテーマについて考え、意見の持ち方を学ぶ。</li> <li>・「昼食は給食と弁当のどちらがよいか」について、自分の考えとそれに対する根拠を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の立場や意見を決めるために根拠を列挙し、その中から自分の意見を支える根拠を選び、反論を考えるなどして意見文を書こうとしている。《ワークシート②》</li> </ul>
	3 本時	○自分の意見が効果的に伝わるように、根拠を示し、具体例や予測される反論などを考えて書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校の昼食は給食がよい」という意見に対して自分はどうか考えるか、あらかじめ挙げておいた根拠の中からふさわしいものを選ぶ。</li> <li>・論理の展開に従ってワークシートに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの構成表に意見、根拠、根拠を支える具体例、予想される反論、反論に対する意見を全て書いている。《ワークシート③》</li> </ul>
3	4	○自分の立場や意見が伝わるように、根拠を明らかにして構成表を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が選んだテーマについて、根拠を持ち、具体例や予想される反論などの構成を工夫してワークシートに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の立場や意見を決めるために根拠を挙げ、その中から自分の意見を支える根拠を選び、反論を考えるなどして意見文を書こうとしている。《ワークシート④》</li> </ul>
	5	○書いた文章を読み返し、推敲することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成を考えて、600字程度の文章になるように下書をする。</li> <li>・観点をもとに、意見文を読み返し、よい点や改善点などを付せんに書いてお互い示し合いをさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートに表現を書き改めるところを書いて意見文を読みやすくわかりやすい文章にする修正をしている。《意見文の下書き、振り返りシート》</li> </ul>
	6	○立場と根拠を明確にして意見文を清書し、読み合っって意見を交流することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付せんの記述をもとに、自分の書いた意見文を清書をする。</li> <li>・課外としてできた作品は文集とし、全員のものを読み合う機会を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見文の清書に意見、根拠、根拠を支える具体例、予想される反論、反論に対する意見を全て書いている。《意見文の清書 意見文の下書き、意見文の清書、振り返りシート》</li> </ul>

## 7 本時の指導

### (1) 目標

自分の意見が効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、具体例や予想される反論などの構成を考えながらワークシートに文章を書くことができる。

### (2) 言語活動充実のための工夫

- ・生徒たちにとって身近なテーマ（「学校の昼食は給食がよい」）を示し、日常の経験を通して自分の意見を述べる文章を書く意欲をもたせる。

- ・意見文を書くための論理の展開の型を示したワークシートを作成し、自分の意見が効果的に伝わるための構成に気をつけて文章を書くことができるようにする。
- ・ペアで完成したワークシートを読み合い、相手の文章の良さに気づき、自分の文章と比較することで自分の考えをより深めるようにさせる。

(3) 展開

段階	学習活動	形態	指導上の留意点
導入 (5)	1 前時の学習を振り返り、学習計画表から本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">自分の意見が効果的に伝わるように、根拠を示し、具体例や予測される反論などの構成に気をつけて書こう</div>	一斉	○学習の見通しを持たせる。
展開 (35)	2 自分の立場を決め、意見を支える根拠として最も説得力のあるものを前時のワークシート（取材メモ）から選ぶ。	個	○根拠を選ぶのに時間のかかっている生徒には、ワークシートを参照させて、あらかじめ教師が、ふさわしいと思われる根拠をアドバイスし、理由付けを支援する。
	3 反論と反論に対する意見を考えて主張を補強して書く。		○活動が滞っている生徒には例を示して考えを選ぶようにする。
展開 (35)	4 論理の展開の型に従って、意見を書く。 (1) 最初に論理の型について理解する。 「PREP方式」 ①私は、～と考える。 POINT（意見） ②なぜなら～だからだ。 REASON（根拠） ③例えば、～（また、～） EXAMPLE（例） ④以上のことから、私は～と考える。 POINT（意見）	個	○頭括式、双括式、尾括式、について確認し、「PREP方式」が双括式の一つの論理の展開の型であることを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">— 言語活動の充実のための工夫 — ・論理の展開の型を示したワークシートを準備し、構成に注意して書くことができるようにする。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">評価規準 ワークシートの構成表に意見、根拠、根拠を支える具体例を書いている。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">Cへの手立て 構成表に書かれていないものについて立ち戻らせ、例を示して考えを促すよう指導する。</div>
	5 自分の書いた文章を読み返す。		一斉
終末 (10)	6 ペアで構成表を読み合い、伝えたい内容になっているか交流し合う。	個人	○早く完成した者同士で読み合い、お互いのよさを伝え合う。
	7 学習を振り返る。次時の課題を確かめ、見通しを持つ。		○次時は、各自が選んだテーマについての意見を述べる文を書くことを知らせる。